人権学習 現地研修

日　程　8月25日(金)
見学先　京都市内
・水平社創立の地
・清水寺
・東寺
参加者　28名

4年ぶりの開催で、京都市での研修は3回目でした。

人権ボランティアガイドの酒井源弘さんに、たくさんの資料を用意していただき、各所で詳しい説明を聞きながら、ゆっくり見学することができました。空模様の心配をしていましたが、残暑厳しい日となりました。

《水平社創立の地》

左京区岡崎にあるロームシアター京都（京都会館）の敷地内に、二枚の石板を平行に立てた形の記念碑が建っています。

1922年3月3日、この地にあった岡崎公会堂に全国の被差別部落の代表者が約3千人集まって、「全国水平社創立大会」が開かれました。そこで読み上げられたのが、奈良県御所市出身の西光万吉さんが草稿を書かれた『水平社宣言』です。

「全国に散在する特殊部落民よ団結せよ。…（中略）…兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渇仰者であり、実行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であったのだ。（以下省略）」

酒井さんによると、水はどんな容器に入れても水平を保つように、水平社という言葉には、自由と平等の意味が込められています。

動物の皮を剥ぐ、処刑場の後始末をする、大きな石を動かすなど、ケガレ（不浄）につながる仕事をする人たちは、劣悪な身分を与えられて、武士の支配に苦しんでいた百姓や町民の不満の「はけ口」にされました。

江戸時代にこうして生まれた差別や偏見が、明治、大正時代に入って「部落差別」として続いていました。

「このままでは自然に差別はなくならない。自分たちが自ら立ち上がって真の部落解放をめざす。」という考えを持つ人たちへの呼びかけで、「全国水平社創立大会」は開かれました。

《水平社宣言（現代語版）》

全国に散らばっている、われわれ差別を受けている人々よ。団結せよ。長い間、いじめられてきた仲間たちよ。明治になって50年、平等だといわれても、実際はそうではなかった。同情やあわれみでは、差別はなくならないのだ。このことを思えば、今、われわれ自身から人間を尊厳することによって、自ら、自由と平等を求める集団運動を起こすのは、当然のことである。

仲間たちよ、われわれの祖先は、自由と平等を心から求め実行してきた者であった。厳しい支配政策の犠牲者であり、たくましく社会や文化を支えてきた者であった。心を引き裂かれるようなどんなに厳しい差別の中でも、人間としての誇りは失わなかった。そして、今、その犠牲者のわれわれが、差別を投げ返す時がきたのだ。われわれが、差別を受けてきた者であることを誇りうる時がきたのだ。

われわれは、自分自身を低く見たり、臆病になったりして、これまでたくましく生きてきた祖先をはずかしめたり、人間の尊厳をおかしたりしてはならない。人の世がどんなに冷たいか、人間を大切にすることが本当はどんなことであるかをよく知っているからこそ、われわれは、心から人生の熱と光を求め、その実現をめざすものである。

水平社はこのようにして生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正11年3月　　水平社

この石碑は、水平社創立60周年を記念して、大会が開催された旧岡崎公会堂跡地に建立されました。

《清水寺境内 阿弓流為（あてるい）・母禮（もれ）の碑》

清水寺境内の南苑に、阿弓流為と母禮の顕彰碑が建立されているのをご存じでしょうか。この石碑についての説明は次のとおりです。

8世紀末頃、日高見国（現在の岩手県奥州市）は、大和政府の勢力圏外にあり、独自の生活と文化を形成していましたが、政府は服属しない東北の民を蝦夷（えみし）と呼び蔑視し、その統治のため巨万の征東軍を動員しました。しかし、首領であった阿弓流為と副将の母禮が率いる軍勢が勇猛果敢に奮闘し、征東軍に多大の損害を与えました。

801年、坂上田村麻呂は4万の将兵を率いて戦地に赴き帰順策により鎮定に取り組みました。ついに、阿弓流為は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷民を憂慮し、同胞五百余名を従えて田村麻呂の軍門に投降しました。

田村麻呂将軍は阿弓流為と母禮を伴い、京都に帰還し、敵将ながら両雄の武勇と人物を惜しみ、東北経営に登用すべく政府に助命嘆願しました。しかし、あまりの勢力を恐れた公家達の反対により阿弓流為と母禮は、田村麻呂の悲願空しく802年8月13日河内国で処刑されました。

1994年、坂上田村麻呂の開基と伝わる清水寺境内に、平安建都1200年の節目の年に、この顕彰碑が建立されました。

《東寺》

バスを降りてまず目に入ったのが、江戸時代に徳川家光の寄進により建てられた国宝・五重塔でした。平安時代に建立されてから、雷火などにより4回も焼失し、その都度立て直されたそうです。

その後、講堂で弘法大師の密教の教えを視覚的に表わした立体曼荼羅といわれる21尊の仏像を拝観しました。さらに金堂では本尊の薬師如来像を真ん中に、日光菩薩像、月光菩薩像が両脇に安置されていて、どちらの建物も、張り詰めた空気に包まれていました。

見学しただけではわからないのですが、説明を聞いて資料や文献を読んでみると、次のようなことがわかりました。

東寺には「散所奉仕」と呼ばれる人々がいて、境内の掃除や築地の修理、諸門の警護等の仕事に従事していたそうです。散所とは、平安時代中期ごろから室町時代にかけて、荘園領主の領地の一部に定住することを認められて年貢の代わりに雑役を務めた人や、その居住地をさしました。そして江戸時代にかけては、特に賤視された人々の一部ならびにその集住地をさす語として流布・定着したと見られます。東寺だけではなく他の権門（公家・武家・寺社）に従属するかたちで各地に散在しており、散所奉仕は、人であるにも拘わらず物のようにやり取りされていたそうです。

「人権ゆかりの地」という視点で3か所の名所を巡りましたが、ガイドさんの説明を聞いて、今まで知らなかったことや、考えさせられることがたくさんありました。

「全国水平社創立大会」から100年を過ぎた現在、果たして差別のない社会になっているでしょうか。

（福田千鶴子　記）

《参加者の感想より（一部抜粋）》

・観光であれば建造物を見てまわり「すごかったね。良かったね。」で終わるところ、研修として同じ建造物を訪れた今回は、ガイドの方の説明を聞きながら納得して見る事ができました。

・差別のない社会（特に現代はLGBT）を目指す原点の水平社について勉強させてもらいました。当時の方々は、とても厳しい差別を受けていましたが、声を出していく勇気が大切だと思いました。

・水平社ということを聞いたことはありますが、少しでも知ることができ、勉強できたかと思います。清水寺も東寺も見せていただき、有意義な一日となりました。ありがとうございました。

・何年かぶりに京都の研修に来られて良かったです。東寺は初めてでしたので、お釈迦様が拝めて良かったです。水平社宣言は、あらためて差別はいけないと思いました。

・人権研修は初参加でした。避けていた訳ではないが、深く考えないで生活して来た気がします。この年になるまで知らない事の多さに残念な気持ちでいます。自分に限ってではなく、歴史を知ることが今日は大きな収穫でした。

・昔は人間という者の扱いが、いかに不平等に扱われていたかという事がよくわかりました。又、人間が平等になるまで長年かかったという事もよくわかりました。